



日本SPF豚協会だより

2022. 1
No.86

提 言

豚のヘルスコントロールを支える 臨床検査機関の充実を願う

日清丸紅飼料株式会社技術サポート部長

矢原芳博



明けましておめでとうございます。今年も人間の新型コロナウイルスに加え、豚熱(CSF)、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)とウイルスとの闘いに明け暮れる年になりそうですが、皆様と豚たちのご健康を祈るばかりです。

養豚の世界においては疾病との闘いは今に始まった事ではなく、私が獣医師の仕事をはじめた1986年当時は、疾病制御の方法論としてSPFという手法がその完成度を大きく高めて普及の佳境に入っていた時期だったと記憶しています。

当時、私の師匠であった三村二雄先生から「ピッグヘルスコントロール」という本を渡されて、当時の最先端の疾病制御の勉強を始めました。それから今日に至るまでずっと、日本の養豚界のヘルスレベルを支える縁の下の一員として養豚の臨床検査に携わってまいりました。

徹底した衛生管理で疾病を農場内に入れない、さらに今ある疾病もある一定レベル以下にコントロールするという思想は、もちろん現在でも最も重要な考え方であり、その衛生管理が狙い通りに機能しているかどうかを判断するツールとして、臨床検査は非常に重要な責任を担っていると信じております。

欧米では大学の獣医学部にそれぞれ獣医診断ラボ(VDL)があり、地域の畜産農場の検体を最新の手法と圧倒的なキャパシティを持って、迅速な結果のフィードバックをしております。有名なところではアイオワ大学やミネソタ大学などのVDLがあり、そこから得られる情報はWebを通じて全世界に提供されています。これらの情報は獣医学に関わる学者だけではなく、実際の生産に携わる臨床獣医師や検査ラボの我々にとっても非常に有益なものになっています。一方、日本の畜産界の臨床検査機関は、過去には飼料メーカー、ワクチンメーカーなど、規模の大小はあるものの各社にながしかの施設を持って顧客対応していましたが、現在ではその数はかなり絞ら

れています。

今回の新型コロナウイルスのパンデミックで露呈したように、日本においては人間の世界でも臨床検査の基盤は極めて脆弱でした。人の臨床検査センターは動物のそれと比較しても桁違いの数と規模を誇っているはずなのに、高度に最適コスト化が図られて、普段あまり需要のない感染症検査に対応できなかったものと思われま

す。人の世界においても感染症制御の重要性が増して、今後も感染症に対する臨床検査体制の拡充が重要課題でしょう。畜産界においては、冒頭のCSFやHPAIなどの急性感染症に対する対応で行政機関は一杯一杯の状況だと推察されますが、農場内に既に広く浸潤している慢性常在性の疾病のコントロールもまた非常に重要な問題であり、その部分においては、我々のような民間の検査ラボが充当する形になっているのが現状でしょう。しかし前述のとおり、民間のラボもそれぞれの規模は決して大きいものではなく、欧米のVDLと比較するとその体制は脆弱であると言わざるを得ません。

そんな中で我々は民間家畜衛生検査機関談話会という集まりを作って、会員会社20数社で民間ラボ間の問題点の共有や診断技術の情報共有化を行ってきました。各ラボそれぞれに、日本の養豚業界からのより高度化する診断データ提供の要請に応じて、技術向上に努めております。

養豚の世界でのバイオセキュリティ、ヘルスコントロールはますます重要なコンポーネントである事は間違いないと思います。養豚を取り巻く疾病がますます複雑化する中において、臨床検査ラボが担う責任もより大きくなっていると感じております。業界の発展を縁の下で支える臨床検査機関にもぜひご配慮を頂き、皆様のご支援で、臨床検査の体制が少しでも充実していく事を願っております。

SPF豚セミナーを 1月26日に開催します オンライン参加と併用、 現地で開催した農場表彰式の模様も上映

先にご案内の通り、延期しておりました令和3年度のSPF豚セミナーを1月26日、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。

感染症対策の観点から、会場人数を制限し、オンラインによる参加との併催といたしました。会場定員30名、オンライン参加90名限定です。参加費は無料です。恒例の終了後の懇親会は行いません。開催要項をご参照ください。

今年度の表彰農場については、すでに前号やホームページ等でご紹介しておりますが、令和3年8月27日に開催された選考委員会において、総合生産成績部門最優秀農場は(株)広島ポーク(広島県、全農畜産サービスピラミッド)、商品化頭数部門最優秀農場は(農)八幡平ファーム(岩手県、全農畜産サービスピラミッド)がそれぞれ選出されました。表彰制度が始まって15回目となる今回、広島ポークは3年連続3回目の受賞、八幡平ファームは7年連続9回目の受賞となりました。

表彰式は、セミナーの延期を受け、現地開催いたしました。広島ポークは令和3年11月9日に三次グランドホテル(広島県三次市)において、八幡平ファームは令和3年11月17日、コミュニケーションギャラリーLiLiO(岩手県盛岡市)においてそれぞれ開催、表彰状とトロフィーを授与し、式の模様や受賞農場のコメント等も

撮影いたしました。編集の上セミナー会場にて上映、ご紹介いたします。

なお、去年はセミナー中止を受け、ビデオ撮影しホームページ上で配信した表彰農場選考経過・講評や、CM農場の生産成績年次報告は、当日会場にて行います。

セミナーの講演は二題あります。まず、世界の食肉情勢について、畜産ビジネスの最先端で携わられている、総合商社伊藤忠商事の山下剛史氏にご解説をお願いします。

続いて、豚肉のおいしさ、SPFポークの付加価値評価について、長年食肉の品質評価研究を続けてこられた第一人者である農研機構畜産研究部門の佐々木啓介先生にご講演いただきます。

セミナーは動画撮影の上、後日協会ホームページにて公開する予定です。

なお、社会情勢次第ではオンライン開催のみに変更になる可能性もあります。直前での変更もあることをご了承ください。会場参加ご希望の方にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

急なご案内となり恐れ入りますが、人数も限定しております。お早めにお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。



▲総合生産成績部門最優秀賞 (株)広島ポーク
左より永野雅彦社長、小島将洋さん、小橋慶人
令和3年11月9日三次グランドホテル



▲商品化頭数部門最優秀賞 (農)八幡平ファーム
左より大泉俊昭常務、阿部正樹組合長、福島大輔場長
令和3年11月17日 コミュニケーションギャラリー LiLiO

令和3年度SPF豚セミナー

開催日時：令和4年1月26日(水) 13:00～16:30

場 所：KKR HOTEL TOKYO東京都千代田区大手町1-4-1) 11階「白鳥の間」

オンライン参加も可能

<プログラム>

- | | |
|--|-------------|
| 開会のあいさつ | 13:00～13:05 |
| 1) CM認定農場生産成績年次報告(2020) | 13:05～13:30 |
| 藤田世秀・日本SPF豚協会専務理事 | |
| 2) 生産成績優秀CM農場表彰 | 13:30～14:00 |
| (1) 選考結果報告・講評 | |
| (2) 現地表彰式報告(動画) | |
| 3) 特別講演「世界の食肉情勢について」(仮題) | 4:00～15:00 |
| 講師：伊藤忠商事(株)生鮮食品第二部畜産ビジネス課・山下剛史氏 | |
| 休 憩 | 15:00～15:15 |
| 4) 講演「豚肉の品質、とくにおいしさ評価について
—SPFポークの付加価値評価に向けて」(仮題) | 15:15～16:30 |
| 講師：農研機構畜産研究部門食肉用家畜研究領域 食肉品質グループ長・佐々木啓介氏 | |
| 閉会のあいさつ | |

<お申し込みについて>

会場参加30名、リモート参加90名限定 定員になり次第締め切らせていただきます。

- ① 所属・お名前
- ② メールアドレスまたは連絡先
- ③ 実参加・リモート参加のいずれか

を明記の上、下記のアドレスまでメールでお申し込みいただくか、FAXをお送り下さい。

j.spf.a@nifty.com

FAX.03-5835-5376 TEL.070-4108-3825

折り返し事務局よりご連絡差し上げます。

リモート参加の方には、前日にお申し込みのアドレス宛に参加URLをお知らせいたします。

アドレス等お間違えのないようご注意の上お申し込みください。

前回は飼養衛生管理基準(豚) 14、15、16項の、人が衛生管理区域(農場内)に立ち入る際の問題点について書きました。今回は26項(大臣指定地域のみ)の豚舎毎の衣類や履物の設置と使用について解説します。豚舎毎に履物や衣類の着替と保管場所を交差汚染が生じないよう一方通行として実施することが規定され大変ですが、これには様々な但し書きや運用手引きがあります。

まず、写真1のように舗装された通路で屋根壁がある場合は履物と衣類は替えなくてもよいことです。また、写真2のように豚舎間の通路が単に舗装されている場合は事前に消毒すれば同様です。豚を豚舎間で移動する場合は写真3のように専用車両を使うことが多いですが、管理者が荷台に豚と一緒に乗る場合も同様です。更に、豚舎外に出ても舎外で作業することなく別の豚舎に移動する場合は、両豚舎間で衣類が共通の場合に限り履物だけを交換すればよいとされています。これらの前提条件としては、豚舎外において病原体に汚染される可能性がない状態であることが必要です。通路が余りに長いとか、森の中を通るような場所は野生動物によって消毒後でも汚染が起こり得ます。また、舗装されていない土壌面に消石灰を散布してから通過することは推奨されません。加えて、豚舎毎の作業着や履物が汚れたままでは交差汚染が懸念されるため、不遵守と判定されます。

このような設備を作ることは難題ですので例えば、移動する豚は舎外を歩かせるのではなく前回は掲載した図のfのように積み降ろし場所を作って車両を利用するか、距離が短い場合はgのように舗装された通路を設けて移動前に消毒する。できればこの通路に屋根と壁を設ければ全体が一体化された豚舎と見なされるので移動前の消毒も省けます。

とは言え、疾病蔓延防止上は清浄度を区分し、同じ清浄度

区分の中では防疫管理を同じにすることを勧めます。清浄度が「高」の部分は全ての豚舎としてもよし、あるいは種豚舎、分娩舎、離乳舎のみでも構いません。この場合はその他の豚舎・場内事務所は「中」、舎外通路や浄化槽・堆肥舎は「低」とします。仮に清浄度区分が同じ豚舎でも通路に踏込消毒槽を置いて通過の度に履物を消毒することを勧めます。



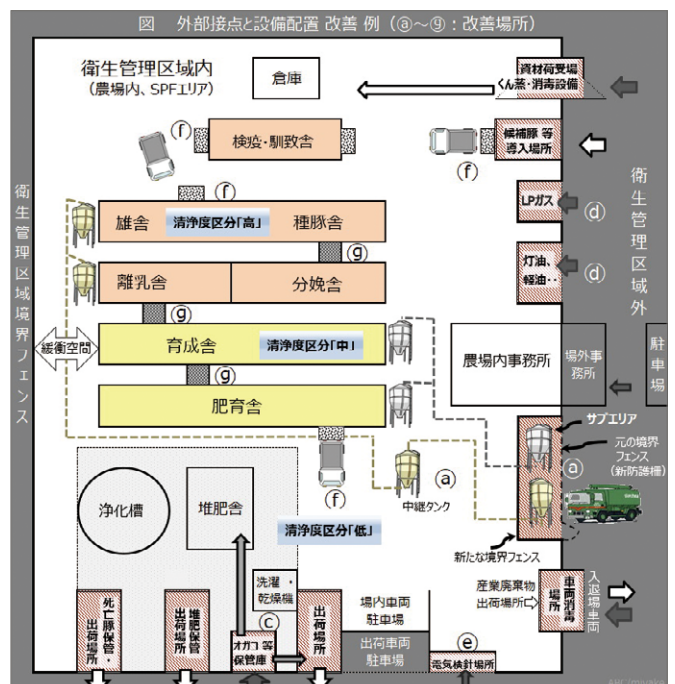
1. 舗装された屋根壁のある通路



2. 舗装された豚舎間通路



3. 豚移動車両



第8回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報

人が農場内を移動する場合の防疫対策

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅真佐男

TOPICS

母豚増体可視化システム 「any-condition」の ご紹介

NTT テクノクロス株式会社
デジタルツイン事業部
マネージャー
田中久子

10月26日より販売を開始した母豚増体可視化システム「any-condition (エニコンディション)」についてご紹介いたします。any-conditionは、当社で開発した豚体重推定システム「デジタル目勘」の技術を母豚の増体管理に活用したシステムです。

養豚経営において、母豚の繁殖成績は経営を左右する重要な要因です。繁殖成績の改善には、交配・分娩・離乳の繁殖ステージにおいて、体重や肥満度(脂肪の蓄積状態=過肥)を適切に管理することが大変重要となります。これまで、目視や触診によるボディ・コンディション・スコア(BCS)判定やP2背脂肪厚測定により、肥満度の管理が行われてきました。一方で、母豚用の体重計を保有する養豚場はほとんどなく、体重による管理は行われてきませんでした。従来行われてきた、BCS判定やP2背脂肪厚測定では、人による測定値のばらつきが大きいことや毛を剃るなどの手間がかかることが課題でした。また、測定した結果はその場での給餌判断に用いられますが、データとしては蓄積されていませんでした。給餌判断の結果は個人の経験としてのみ蓄積され、農場全体の経験として蓄積されないという課題もありました。

従来の母豚管理に課題感を持たれていた山形県農業総合研究センター養豚研究所と2年間の共同研究を実施、その成果として体重と胸囲に高い相関があることが分かりました。any-conditionは、胸囲を非接触で簡単に計測し、胸囲の推移から母豚の増体管理を行うシステムです。

any-conditionは、以下の3つの特長を持っています。

1つ目の特長は、誰でも簡単に計測が可能であることです。母豚の外観から非接触で胸囲を推定します。従来のBCS判定やP2背脂肪厚判定に比べて省力的であり、誰でも、素早く計測できます。

2つ目の特長は、給餌管理への活用です。推定した胸囲から太り具合を自動で評価します。増体推移はグラフでも確認でき、熟練者でなくてもその場で定量的な判断基準から給餌量を調整することが可能になります。

3つ目の特長は、繁殖成績の見える化・分析に活用いただけることです。品種や飼養環境に合わせた農場毎の標準的な増体推移曲線(標準増体曲線)をご提供します。データを蓄積することで、繁殖成績と紐づけて標準増体曲線を更新したり、繁殖傾向の見える化や傾向分析が可能となります。

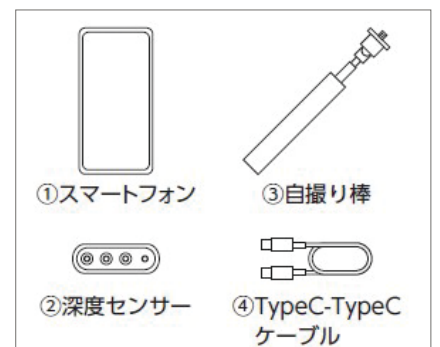
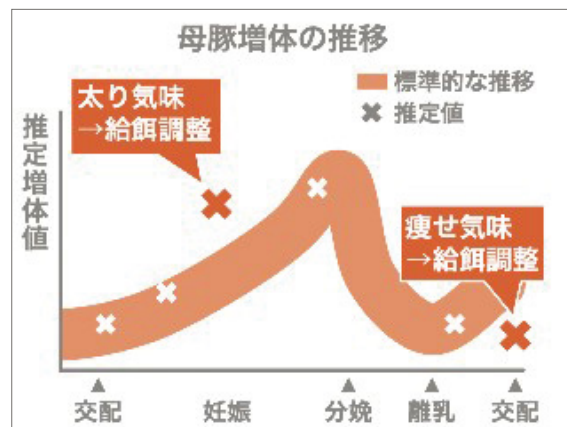
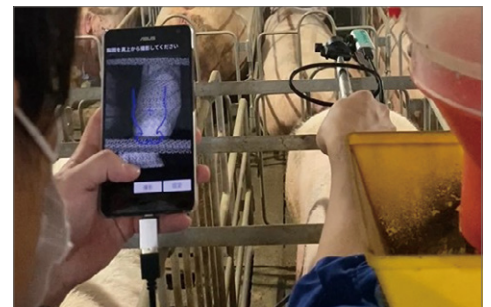
any-conditionは、ソフトウェアのみを提供いたします。胸囲計測には、スマートフォン、深度センサー等の機器が必要となります。必要な機器は、約10万円程度の市販品で構成され

オンライン通信販売から購入できます。

システムの利用には、初期導入費と年間ライセンス費がかかります。費用は農場の母豚規模により異なります。母豚100頭規模の場合、初期導入費は7.2万円、年間ライセンス費は2.8万円です。母豚1000頭の場合は、初期導入費は60万円、年間ライセンス費は24万円となります。機器の購入、価格の詳細につきましてはお問合せください。

<問い合わせ先>

NTTテクノクロス株式会社
any-condition製品担当(田中、内田、秋葉)
TEL: 045-212-7388
E-mail: any-condition.info-ml@ntt-tx.co.jp



協会からのお知らせ

●協会ホームページで『50年史』と『協会だより』全バックナンバーの電子書籍をご覧いただけます

協会創立 50 周年を記念して刊行された『日本SPF豚協会 50 年史―苦悩と模索の半世紀』を電子書籍化し、協会ホームページから閲覧できるようにしました。

<http://www.j-spf.com/>

にアクセスいただき、トップページの左側のアイコンをクリックすると書籍ページに移ります。

また、今までPDFファイルで掲載しておりました協会

だよりのバックナンバーも、電子書籍としてページをめくってお読みいただけるようになりました。2000 年 10 月発行の創刊号からすべてお読みいただけます。20 号ごとにまとめてあります。こちらもトップページの「バックナンバー」アイコンをクリックしてください。今後も発行のたびに更新していきます。

ぜひご覧ください。

●薬剤耐性（AMR）対策に取り組みましょう

薬剤耐性菌による感染症の世界的な増加が懸念される中、我が国では、平成 28 年 4 月に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を策定し、人と動物などの関連分野が連携して対策を推進しています。アクションプランに基づき、毎年 11 月を「薬剤耐性対策推進月間」（以下「推進月間」という。）に位置付け、推進月間を中心に薬剤耐性に関する知識や理解を深めるための国民的な運動を展開してきました。

推進月間における農林水産省の取組としては、昨年 11 月 30 日に日本医師会・日本獣医師会による 12 回目

の連携シンポジウムも開催されました（Webによる動画配信形式）。

また、今年度から抗菌剤に頼らない養豚生産の取組を紹介した優良事例動画や愛玩動物の飼い主向けのアニメーション動画を公開しております。養豚生産の優良事例動画では、協会認定農場の(有)高橋畜産（北海道せたな町、ホクレンピラミッド）が紹介されていますのでぜひご覧ください。

抗菌剤の適切な使用方法と使用量の低減を心がけましょう！

抗生剤の歴史の 1 世紀 / 現在まで

1928年 1940年代 1950年代

みんなで取り組もう 薬剤耐性問題
of the people, by the people, for the people.

「One Health」のアクション / 「あきらめない」「生みださない」「見逃さない」「共に取り組む」

11月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間です。 内閣官房

内閣官房 国際感染症対策調整室
<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infection/activities/amr.html>

農林水産省 公式 Twitter
https://twitter.com/MAFF_JAPAN

<普及啓発推進月間のツイート>
11月は薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間です。
農林水産省では動物分野の取組としてペットの飼い主の方に向けてツイートをしています。職員自慢のワンコとニャンコが毎月登場していますのでぜひご覧ください！
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/amr3pets.html>

#農林水産省 #ペットの薬剤耐性について考えよう 2021

抗生剤 動物にも「は」ペットにもあなたにも大事なお薬です。

推進月間だわ

抗菌剤に頼らない養豚生産の取組を紹介した優良事例動画
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/youtonamr.html>

愛玩動物の飼い主向けのアニメーション動画
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/amr3pets.html>

抗菌剤を正しく使えなかった結果、ペットの体内でどのようにして耐性菌が増えるのか等わかりやすくアニメーションで紹介しています。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



かんたん 豚肉無水鍋

●レシピ提供・ちゃっぷ林館 桜はな(北海道森町)

調理長 長谷川敏幸

寒い季節、鍋料理は欠かせませんね。今回は豚肉と野菜のうまみを逃がさない蒸し煮鍋。味噌とチーズ、トマト、豆苗の取り合わせも新鮮で彩りも鮮やか。栄養バランスもよさそうです。ぜひお試しください。

●材料 ●(2人分)

SPF肩ロース薄切り肉 300g
 キャベツ 150g
 しいたけ 中4個
 しめじ 1/2パック
 ミニトマト 6個
 もやし 60g
 豆苗 4/1パック
 ピザ用チーズ 40g
 <味噌だれ>
 味噌 60g
 はちみつ 20g
 バター 10g
 しょうゆ 小さじ1
 おろししょうが 小さじ2
 おろしにんにく 小さじ1
 鍋用酒 大さじ1

●つくり方 ●

- ① 味噌だれの調味料を混ぜ合わせます。
- ② キャベツ、しいたけは5ミリ幅ぐらいに切ります。しめじは石づきを落とし手でほぐし、豆苗は2センチくらいの長さに切ります。ミニトマトはへたをとって半分に切ります。
- ③ 鍋の真ん中をあけてキャベツ、しめじを入れ豚肉を並べ隙間にミニトマトを入れます。味噌だれの半量をかけます。
- ④ 重ねるように残りの野菜を入れて豚肉を並べた上に味噌だれの残りとしめじとチーズをかけ、真ん中に豆苗を入れます。
- ⑤ 酒を振り入れふたをして弱火で煮て水分が出てきたら弱中火で4～5分煮ます。

★長谷川シェフからのアドバイス

鍋の真ん中を開けるように盛りつけると煮る時に水蒸気が上がり蒸し煮になります。お好みで一味唐辛子や柚子胡椒をつけて召し上がってください。野菜類は冷蔵庫にあるもので結構です。

認定情報

●2021年12月認定農場

(有効期間：2021年12月2日から22年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室、(有)道南アグリ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産繁殖農場、同子豚農場、同肥育農場、同第3農場、神明畜産(株)八戸ファーム、岩手県・(有)ケイアイファーム玉山農場、(株)さいとうふあーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、秋田県・(有)ポークランド、(株)ユキザワ雪沢農場、山形県・(有)最上川ファーム、宮城県・(株)しまざき牧場蔵王高原農場、福島県・神明畜産(株)川内ファーム、茨城県・(有)常陸牧場、ピッグファー

※次回認定委員会は2022年3月10日(木)の予定

ムゴカン、千葉県・(株)ツナシマ、(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、高森養豚、小長谷養豚、(有)菅井物産SPF農場、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、岡山県・岡山JA畜産(株)吉備農場、同田淵農場、広島県・(株)広島ポーク、愛媛県・(株)ユキザワ大川農場、同丹原農場、大分県・JA北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、長崎県・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、同瑞穂農場、宮崎県・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、鹿児島県・そお元気ファーム(株)持留農場、同久保崎農場、(有)エクセルファーム湧水農場(以上51農場)

※9月の認定委員会において3か月間の認定期間延長が認められ、今回認定された農場

(有効期間：令和3年12月2日から令和4年9月末日まで)

秋田県・(有)ファームランド、(有)ポークランド第二農場、千葉

県・(株)豊橋飼料(株)種豚センター、鹿児島県・そお元気ファーム(株)野方農場(以上4農場)



**ホクレン
農業協同組合連合会**
(北海道札幌市)



ホクレン滝川スワイン・ステーション

生産者と歩み続けた 30 年 つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に!

84号に続いてのピラミッド紹介、
今号はホクレンピラミッドです。

平成2年、北海道滝川市にGGP農場である“ホクレン滝川スワイン・ステーション”が産声をあげました。ホクレンピラミッドの始まりです。

(株)シムコや北海道立滝川畜産試験場(現(地独)北海道立農業総合研究機構畜産試験場)の協力のもと、プライマリーSPF豚の作出、ダンボールアイソレータでの人工哺育とすべての作業が初めてで希望と不安が入り混じった何とも言えない感情だったことを思い出します。

現在では、GGP・GP農場1農場(滝川スワイン・ステーション)、CM農場9農場で構成されており、そこで生産されるSPF豚肉も道内の量販店等で販売され、一定の評価を得ています。令和2年度のSPF肉豚出荷頭数は約16万頭で、全道出荷肉豚の約13%を占めています(生産者の紹介は、ホクレンホームページ(ホクレンSPFで検索)に掲載されています)。

しかし、最初から順風満帆だったわけではありません。滝川スワイン・ステーションをSPF化したものの、供給する農場は一般農場でSPF農場ではありませんでした。導入先での事故も多かったのです。

ホクレンピラミッドの最初のSPFCM農場はササキSPFファーム(JAめむろ)でした。ササキSPFファームでの知見や実績を基に飼養管理技術などが蓄積されていきました。その後、徐々にSPF化に着手する農場も増えていき、現在に至っています。これは、生産者、JA、関係機関が同じ方向を向き、一緒になって取り組んだ証だと思っています。

少し話を変えます。ホクレンピラミッドの主役は生産者です

が、その認定等に係わるピラミッドの委員はどのように構成されているのかを紹介します。

委員の構成は、(一社)北海道酪農畜産協会、畜産試験場、全農、ホクレンくみあい飼料(株)、ホクレンから選出された委員で構成されています。そこで四半期に一度、認定に向けた事前協議を行い、認定委員会に認定申請をしています。そこでの意見等を生産現場にフィードバックして、さらに生産性向上に向け取り組んでいます。

豚熱ワクチン接種地域の拡大や世界情勢が混沌としている現在、養豚情勢の先行きも不透明さを増しているように感じます。温故知新、先人の知恵を拝借して、新しいものにチャレンジする良い機会なのかもしれません。

北海道も2018年に開基150年を迎えました。北海道日本ハムファイターズも稲葉GM、新庄BIG BOSSの新体制になりますし、2023年には北広島市に新球場(エスコンフィールド)もできます。

私事ですが、出身は北海道十勝。十勝を開拓した依田勉三は晩成社という会社を設立して、荒れ地を開拓していきました。今でもその開拓者精神は根付いています。『開拓のはじめは豚とひとつ鍋』依田勉三が詠んだ句です。豚丼、すき焼きには豚肉、肉じゃがには豚肉と、豚と縁が深い北海道です。

つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に!

ホクレンピラミッドは、開拓者精神で生産者の皆様と次の時代を切り開いていきます。

(ホクレン農業協同組合連合会畜産生産部生産技術課・小師 聡)

編集後記

あけましておめでとうございます。第6波の気配はまだ見えてきませんが、年末には豚熱の発生や鳥インフル陽性確認が相次ぎました。豚熱による殺処分は9万頭近くに及んでいます。今年も緊張感を持って、身構える年になりそうです。協会も次の10年に向けて、運営のあり方の見直しを迫られています。協会の立ち位置をしっかりと見据え、議論を深めていきたいと思えます。また、ヘルスチェックも人のコロナで具体的行動が制限され、あり方を模索しなければなりません。今年には協会にとって、ターニングポイントの年になりそうです(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第86号 2022年1月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀